

地域・家庭と連携し、本と共にある生活を目指した事例

学校名 羽生市立川俣小学校
 所在地 埼玉県羽生市本川俣6 2 9 番地
 電話 048-561-1006

1 本校の概要

本校は、児童数 123 名、8 学級の小規模校である。明治 19 年に開校した歴史と伝統のある学校で、江戸時代から、地区の平安を祈りながら家々を回った「まわり地蔵」が 260 年以上も続いている地域である。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ a 読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・ d 家庭や地域との連携

(2) 実践の概要

ア 読書月間～給食センターとの連携～

- ・ 羽生市の学校給食では、読書の秋に合わせて、物語給食メニュー献立（ひみつのキーマカレー『ひみつのカレーライス』、フルーツポンチ『アッチとドッチのフルーツポンチ』）が提供された。本校では、メニューの基になった絵本の読み聞かせを図書委員が行い、児童の読書や給食への関心を高めた。



「図書委員による読み聞かせ」「給食室前の絵本の展示」

イ 小学生新聞の活用～七色新聞～

- ・ 毎日小学生新聞を活用し、1 週間で 7 種類の新聞記事を読むことができる。天気、防災、ニュース、スポーツ、歴史、生き物、料理など様々なジャンルの内容を扱い、児童の興味関心を高め、新聞に慣れ親しむことができる。



「七色新聞の掲示」

ウ 小学生新聞の活用～まわし読み新聞～

- ・ 児童がグループに分かれ、それぞれ複数紙の新聞を回し読む。興味をもった記事、紹介したい記事などを選び、1 枚の画用紙に貼り合わせていく。活字に親しみ、世の中への関心を高めたり、児童同士の意見を交流したりする取組となっている。



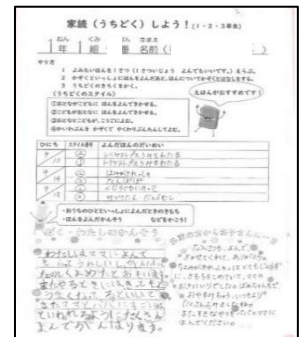
「制作の様子（1年生）」



「できあがったまわし読み新聞」

エ 家庭との連携～家読～

- ・ 家族みんなで読書することでコミュニケーション力を高め、読書習慣を確立することをねらいとしている。毎月、月初めの週末に実施する。（年間 11 回の取組）



「家読カード」

オ 公民館との連携～本のポップ展示～

- ・ 川俣公民館の文化展に合わせ、図書委員が制作した本のポップや帯をおすすめの本と共に展示している。公民館図書室の利用促進にも繋がっている。



「川俣公民館文化展の展示の様子」

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 本や新聞などに触れる機会を積極的に設けることで、児童が読書に親しむことができた。

(2) 課題

- ・ 継続して本に親しむ態度を身に付ける。

(3) おわりに

今後も、学習等に幅広く読書に関連付けた取組を行い、児童の読書への意欲喚起に繋げたい。